



取扱説明書



◆この度は、本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

LET'S corporation

目 次

1. 本装置を使用するための準備	1
1. 1 必ずお読みください.....	1
1. 2 本装置の接続前に	5
1. 3 I N S 番録とは.....	6
2. 製品構成.....	6
3. 各部の名称と説明	7
3. 1 正面及び背面の説明.....	7
6. 2 設定パネルの説明.....	8
4. 各装置の接続.....	9
4. 1 接続方法	9
4. 2 接続時のディップスイッチ設定.....	10
4. 3 接続時の注意事項	10
5. 操作&動作の説明	11
5. 1 電話を掛ける	11
5. 2 電話を受ける	11
5. 3 録音動作の説明.....	11
5. 3. 1 通話録音とは.....	12
5. 3. 2 着信代行による留守録とは.....	12
5. 4 録音した音声メッセージの確認方法.....	13
5. 4. 1 電話機から確認する方法	13
6. 各種設定.....	16
6. 1 メモリカード部の説明	16
6. 2 設定部の説明	17
6. 2. 1 ディップスイッチの設定	17
7. メンテナンス.....	18
7. 1 日付設定の方法.....	18
7. 1. 1 現在日時の表示.....	18
7. 1. 2 日時の設定.....	19
7. 2 コマンド操作	21
7. 2. 1 コマンド操作の基本	21
7. 2. 2 コマンド一覧	21
7. 2. 3 コマンド操作説明.....	22
8. 主な仕様.....	27
5.2 主な機能.....	27
9. トラブルシューティング.....	28

はじめに

このたびは、**INS番録**（以降、本装置と記述）をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

この説明書を良くお読みいただき、本装置の機能を十分発揮できますように正しくお取扱い、運用いただきますようお願い申し上げます。この説明書は保証書、付属品と共に大切に保管してください。

ご使用上の注意

- 本装置及び付属品の使用により生じた金銭上の障害逸失利益又は第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置及び付属品は、改良の為予告なしに変更することがあります。
- 本装置の故障、誤動作、不具合あるいは停電等の外部要因によって、通信、録音等の機会を逸したため生じた損害などの純粹経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ご注意：本書の内容については、改良のため将来予告なしに変更することがあります。

問合せ先

本商品に関するご質問は、購入店または下記にお願いします。

株式会社 レッツ・コーポレーション
電話 052-201-6230
ファックス 052-201-5050
ホームページ <http://www.lets-co.co.jp>
問い合わせ時間 9:10～18:00
月曜～金曜日（祝日祭日を除く）

改良、改善などのため予告なく仕様及びそのほかの変更を行うことがありますのであらかじめご了承ください。

1. 本装置を使用するための準備

1. 1 必ずお読みください

この取扱説明書は、本装置の取扱方法および各機能の操作方法について説明しています。

●安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品の表示では、製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、様々な絵表示をしています。その表示と意味は次の様になっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

お願い：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮されないほか、機能停止をまねく恐れのある内容を示しています。

絵表示の例



●記号は禁止の行為であることを示しています。

図の中に具体的な禁止内容（左図は湿度の高い場所への設置禁止）を示しています。



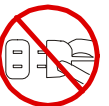
●記号は禁止の行為であることを示しています。

図の中に具体的な禁止内容（左図は火気のそばへの設置禁止）を示しています。



●記号は禁止の行為であることを示しています。

図の中に具体的な禁止内容（左図は分解禁止）を示しています。



●記号は禁止の行為であることを示しています。

図の中に具体的な禁止内容（左図は AC アダプタをコンセントから抜く行為）を示しています。

注意事項

■設置場所について

警告

●湿度の高い場所への設置禁止

風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



●火気のそばへの設置禁止

本機や電源コードを熱器具等の発熱する物に近づけないでください。カバーや電源コードの被服が溶けて、火災・感電・故障の原因となることがあります。



●湿度の高い場所への設置禁止

直射日光の当たるところや、湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因になることがあります。



●油飛びや湯気が当たるような場所への設置禁止

調理台のそば等油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電となることがあります。



注意

●不安定な場所への設置禁止

ぐらついた台の上や傾いたところ等、不安定な場所に置かないでください。
また、本機の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因になることがあります。



注意

●通風孔をふさぐことの禁止

本機（カバー）の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。次のような使い方はしないでください。



- ・じゅうたんや布団の上に置く
- ・テーブルクロスなどを掛ける
- ・収納棚や本棚などの風通しの悪い狭い場所に押し込む

お願い

●本機を正常にまた安全に使用していただくために、次のようなところへの設置は避けてください。

- ・ほこりや振動が多い場所
- ・気化した薬品が充満した場所や、薬品に触れる場所
- ・ラジオやテレビ等のすぐそばや、強い磁界を発生する装置などが近くにある場所

■使用について

(1) もしもこんなときは・・・

警 告

●発煙への対処

万一、煙が出ている、変な臭いがする等の異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の AC アダプタを抜いて、煙が出なくなるのを確認してから、ご購入店か当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



●水が装置内部に入った場合の対処

万一、内部に水が入った場合は、すぐに本機の AC アダプタを抜き、ご購入店か当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●異物が装置内部に入った場合の対処

本装置の内部に金属類や燃えやすい物等の、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに本機の AC アダプタを抜き、ご購入店か当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●電源コードが傷んだ場合の対処

電源コードが傷んだ状態（芯線の露出・断線等）のまま使用すると、火災・感電となります。すぐに本機の AC アダプタを抜いてご購入店か当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

(2) 電源について

警 告

●商用電源以外の禁止

AC100V 家庭用電源以外では絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、やむを得ず同じ電源コンセントに他の電気製品の電源プラグを差し込む場合は、合計の電流値が電源コンセントの最大値を超えないように注意してください。火災・感電の原因となります。



●AC アダプタ

専用の AC アダプタ以外は絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



●電源コードの取扱注意

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが損傷し、火災・感電の原因となります。



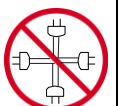
●ぬれた手での操作禁止

ぬれた手で AC アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



●たこあし配線の禁止

テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、たこあし配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



⚠ 注意

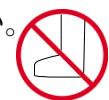
●アダプタの取扱注意

ACアダプタを抜くときは、必ずACアダプタを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



●乗ることの禁止

本機に乗ったり、こしかけたり、すわったり、よりかかったりしないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわれてけがの原因となることがあります。



(3) 禁止事項について

⚠ 警告

●改造の禁止

本機を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。



●ぬらすことの禁止

本機に水が入ったり、ぬらさぬようにご注意ください。火災・感電の原因となります。



●異物を入れないための注意

本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合は火災・感電の原因となります。



(4) 其他のご注意

⚠ 注意

●雷のときの注意

雷が発生した際は、ACアダプタ及びモジュラーコードに触れないようにしてください。感電の恐れがあります。



●ACアダプタの清掃

ACアダプタとコンセントの間のほこりは定期的に（半年に1回程度）に取り除いてください。火災・感電の原因となることがあります。



●長期不在のときの注意

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。

1. 2 本装置の接続前に

- 本装置に接続の電話機や主装置、または携帯電話との接続を変更した場合などは、ACアダプタを一度抜いて、5秒ほどたってから再度差し込んでください。
- 本装置はINS64回線相当のU点出力です。INS64回線を収容できる端末と接続してください。
- 本装置はP-P/P-MPどちらも対応しております。
また、常時接続及び呼毎端末を接続できます。
- S/T点端末を接続する場合は、別途DSUをご用意ください。
- ビジネスホン主装置及びPBXの、内線には接続できません。
- 本装置の電源オフ時は、通話録音や着信代行はできません。
- 本装置はフレックスホンのサービス回線にはご使用になれません。
- 端末にファクシミリ、モデムなどのデータ通信装置は接続できません。
- 本装置にはセキュリティー端末、パケット端末は接続できません。

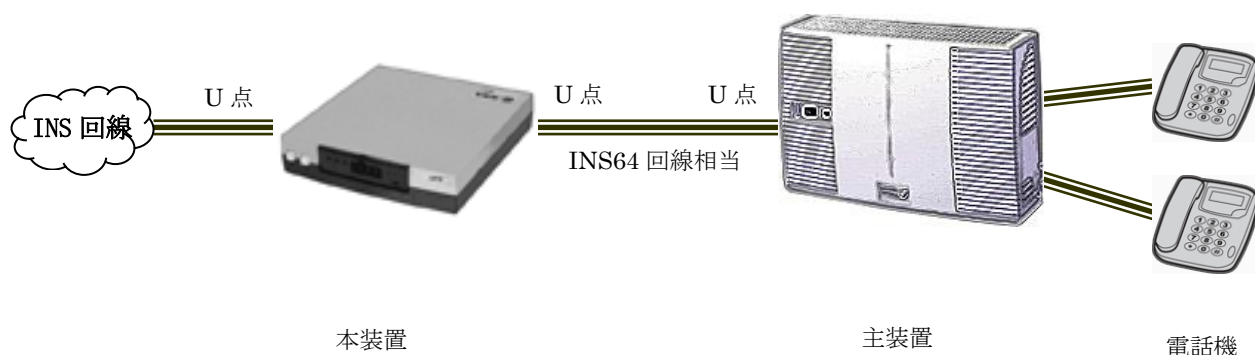
1. 3 I N S 番録とは

I N S 回線を直収容する P B X や主装置の前に本装置を取り付けることで、収容する回線の通話録音並びに、着信代行応答による留守番録音を行うことができます。

録音した音声メッセージは、本装置のメモ리카ードに保存されます。

メモ리카ードに保存された音声メッセージは、本装置に接続される電話機からの確認、または、本装置からメモ리카ードを取り外してパソコンのメディアプレイヤー等で確認することができます。

接続構成例



2. 製品構成

ご使用前に梱包されている内容をご確認ください。

万一、不足しているものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。

本装置	1 台
モジュラーコード 2 m (ストレート)	1 本
A C アダプタ	1 個
取扱説明書 (保証書含む)	1 冊



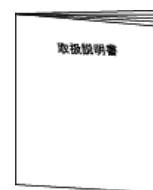
本装置



モジュラーコード



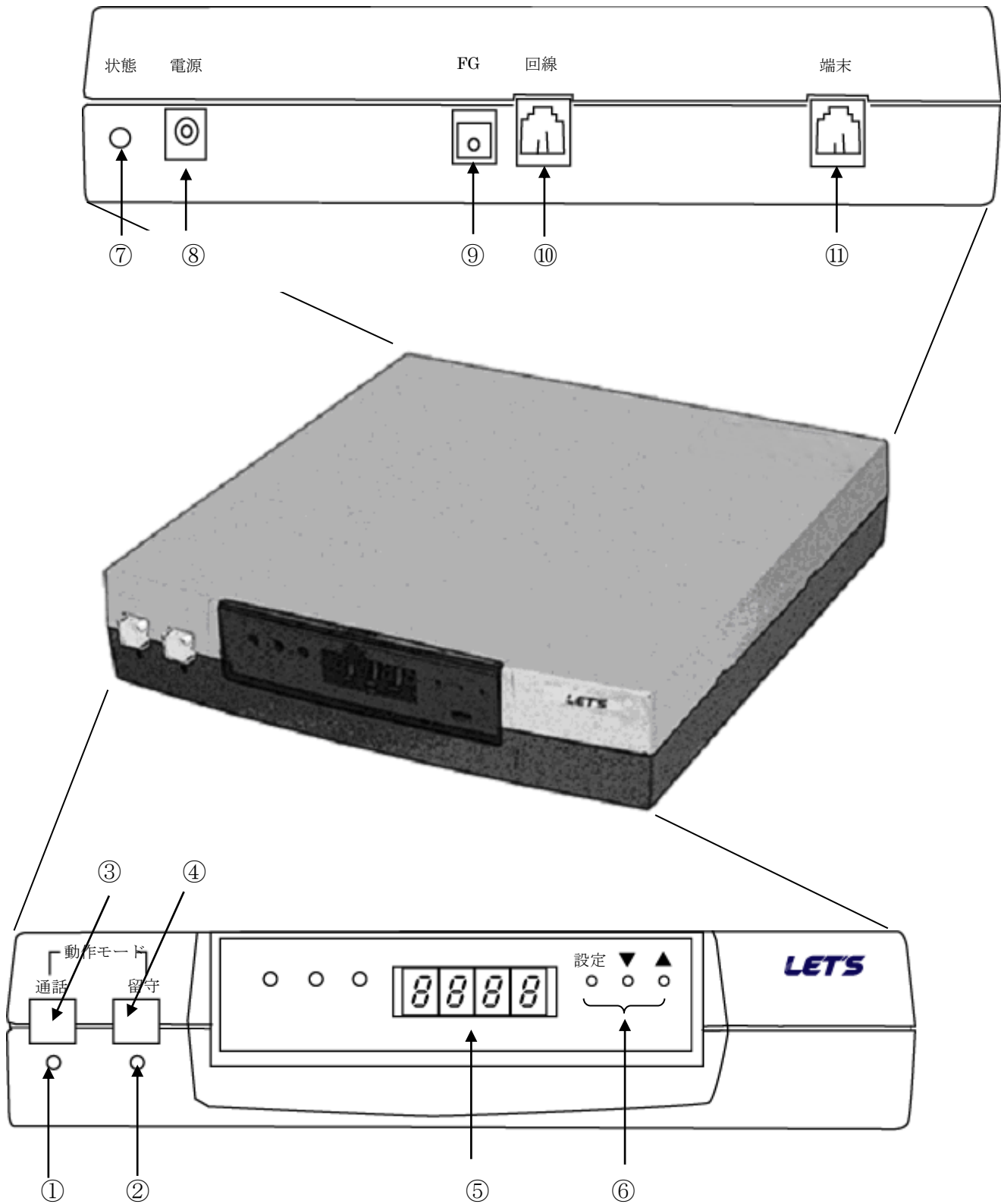
A C アダプタ



取扱説明書

3. 各部の名称と説明

3. 1 正面及び背面の説明

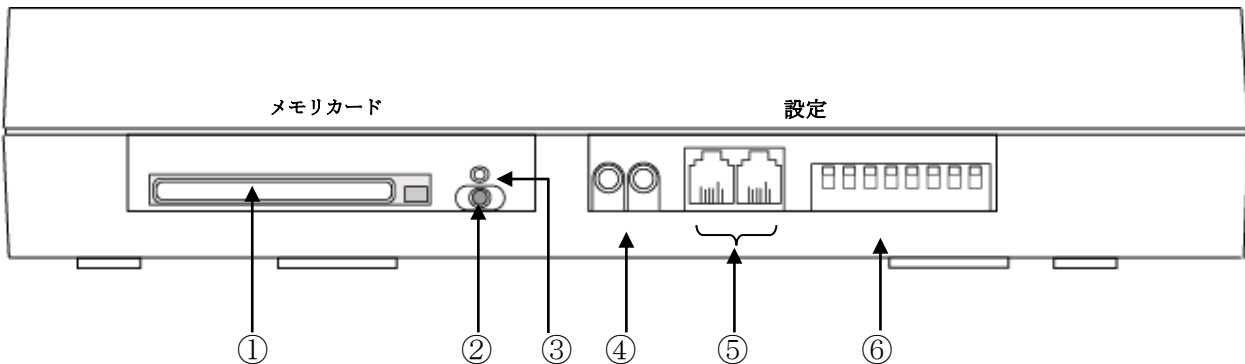


正面及び背面の説明

No	名 称	説 明
①	通話モードランプ	通話モード設定中は点灯。
②	留守モードランプ	留守モード設定中は点灯。
③	通話モード切替スイッチ	通話モードの設定スイッチ。 設定されると通話録音が行えます。
④	留守モード切替スイッチ	留守モードの設定スイッチ。 設定されると着信代行応答による留守録が行えます。
⑤	表示パネル	時刻設定等を表示するパネルです。
⑥	メンテナンススイッチ	時刻設定等の合わせ・設定を行うスイッチです。
⑦	状態表示ランプ	回線や端末との同期状態をランプで表示します。
⑧	電源端子	付属のACアダプタを接続します。
⑨	F G 端子	接地を行う端子です。
⑩	回線端子	I N S回線U点を接続する端子です。
⑪	端末端子	I N S回線U点の端末を接続する端子です。

6. 2 設定パネルの説明

※本装置側面の設定ふたを開けた様子



側面の説明

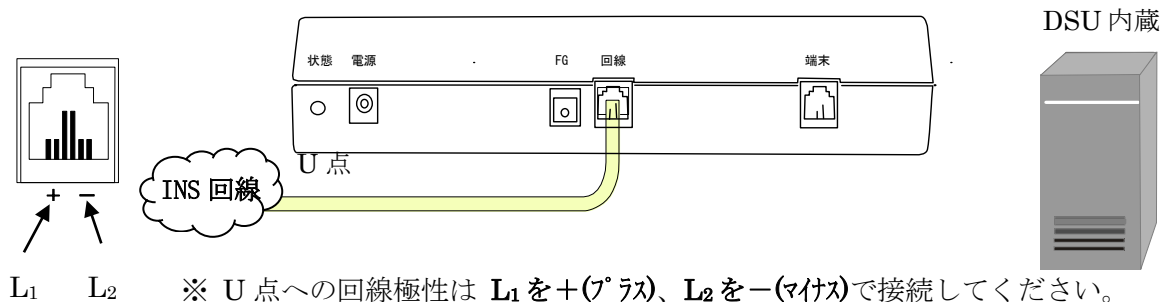
No	名 称	説 明
①	メモリカード	録音した音声を保存する外部メモリです。 カードメディアはコンパクトフラッシュです。
②	メモリカード電源 OFF スイッチ	メモリカードの電源を OFF にします。
③	メモリカード電源表示ランプ	メモリカードの動作状態を表示します。 点灯：メモリカードは動作しています。 消灯：メモリカードを脱着できます。
④	拡張端子	使用しません
⑤	メンテナンス端子	使用しません
⑥	ディップスイッチ	各種動作設定に使用します。

4. 各装置の接続

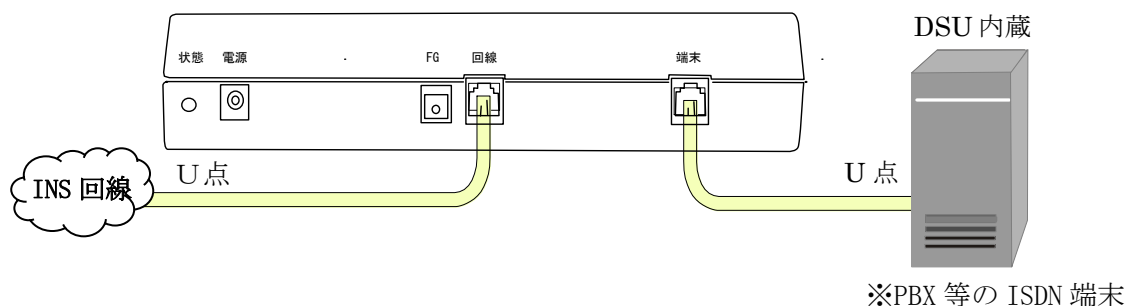
4. 1 接続方法

各部を接続する際は、本装置の電源を OFF にして、正しい順序で行ってください。

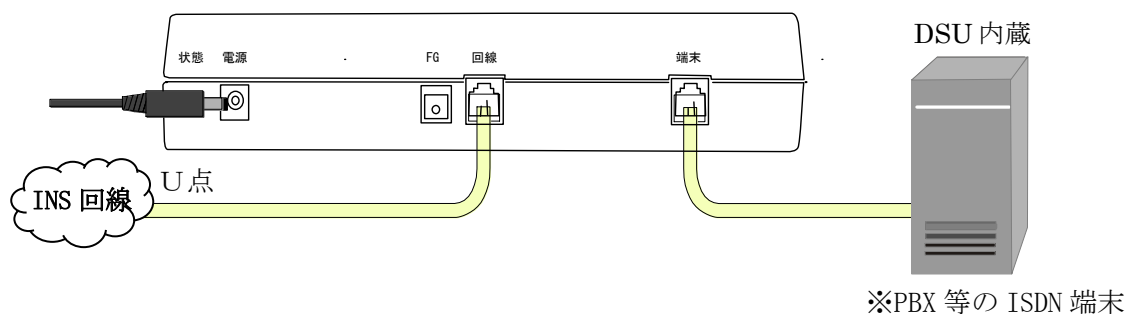
- ① INS 回線を回線端子に接続します。



- ② PBX 等に接続します。



- ③ ACアダプタを接続します。



- ④ ACアダプタ投入後、状態表示ランプが点滅し回線との同期処理を開始します。
状態表示ランプが点灯したら回線との同期が確立しました。
状態表示ランプが点滅のままの場合、回線との同期が確立されていません。
4. 2 接続時の設定及び、配線などを確認してください。

<注意> 電源はAC100V、50/60Hz以外では使用しないでください

4. 2 接続時のディップスイッチ設定

本装置の設置において、接続する回線及び接続する端末のインタフェース形態（P-MP / P-P）と接続端末のTEIの関係で、本装置ディップスイッチによる設定が必要になります。

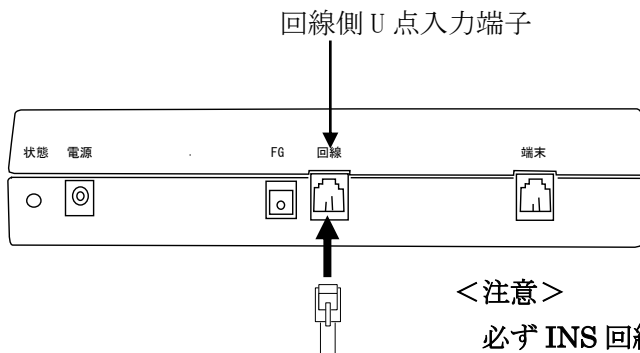
インタフェース形態とディップスイッチの設定

インタフェース形態		ディップスイッチの設定		状態表示ランプ (同期確立のランプ状態)
回線	端末	4番	5番	
P-P	P-P	上	上	点灯
P-MP	P-MP	上	上	点灯
P-MP	P-MP (TEI=0 の場合)	下	下	2秒点灯 / 0.5秒消灯

※同期確立されていない場合の状態表示ランプは、0.5秒毎に点灯、消灯を繰り返します。

4. 3 接続時の注意事項

- 本装置に回線を接続するときは、本装置の電源アダプタを抜いてください。
- 本装置が対応している回線はINSネット64のみです。
デジタル専用線やアナログ加入回線等ではご使用できません。
- 本装置はターミナルアダプタではありませんので、アナログ端末は直接接続できません。
- 本装置のFG端子にはアース線を接続してください。
- 回線のU点を接続するとき



<注意>

必ずINS回線のU点を接続してください。
誤って、アナログ加入回線等を接続すると、
異常発熱や本装置が故障する場合があります。

5. 操作&動作の説明

本装置を運用いただくための電話を掛ける、電話を受けるときの基本操作方法を説明します。

5. 1 電話を掛ける

※今までと同じ操作方法で発信して通話してください。

① 電話機の受話器を上げ「ツー」という発信音が聞こえたら発信先にダイヤルしお話しください。

5. 2 電話を受ける

※今までと同じ操作方法で着信応答して通話してください。

① 電話機のベルが鳴動したら受話器を上げお話しください。

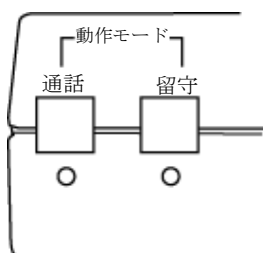
5. 3 録音動作の説明

本装置は動作モードとして、通話を録音するモードと、着信代行による留守録するモードの2種類が用意されております。

動作モードは、本装置の正面にあるスイッチにより設定できます。

スイッチを押すとランプが点灯し状態を表示します。

■点灯なし

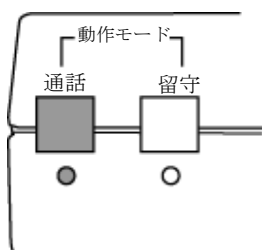


スケジュール設定に従い動作します。

「通話」「留守」のどちらかを押すと、選択した動作モードに設定され、選択されたボタンとランプが点灯します。

また、選択している側のスイッチ（点灯中）をもう一度押すと、選択が解除されます。

■動作モード：通話

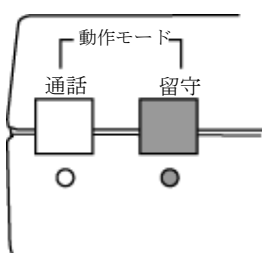


通話録音を行います。

着信しても着信代行は行いません。

表示は緑色に点灯します。

■動作モード：留守



通話録音及び、留守録音を行います。

着信すると着信代行を行います。

表示は赤色に点灯します。

5. 3. 1 通話録音とは

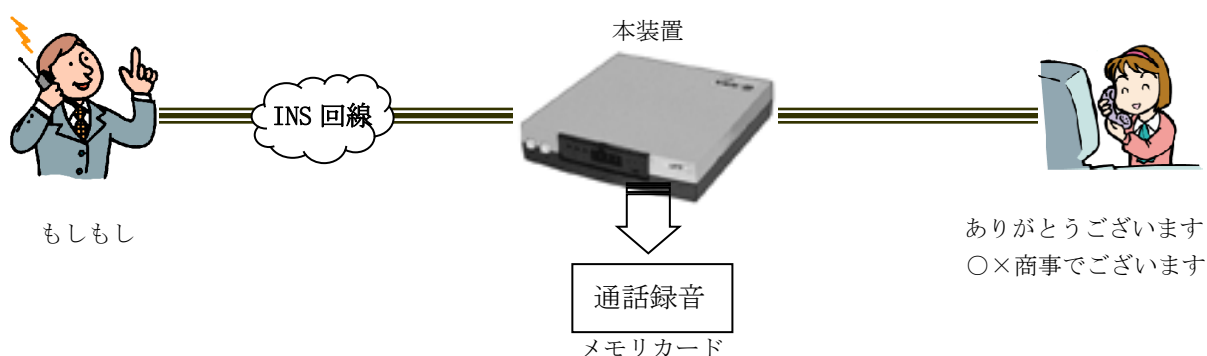
本装置正面の動作モード切替スイッチが「通話」に設定されている場合、本装置に收容されている回線での通話を録音します。

通話録音は発信・着信に関係なく行います。

通話録音の開始・停止の条件は次の通りです。

状態	通話録音開始の条件	通話録音停止の条件
端末から発信	相手が応答した	端末がオンフックした
端末に着信	端末がオフフックした	端末がオンフックした

<通話録音の例>

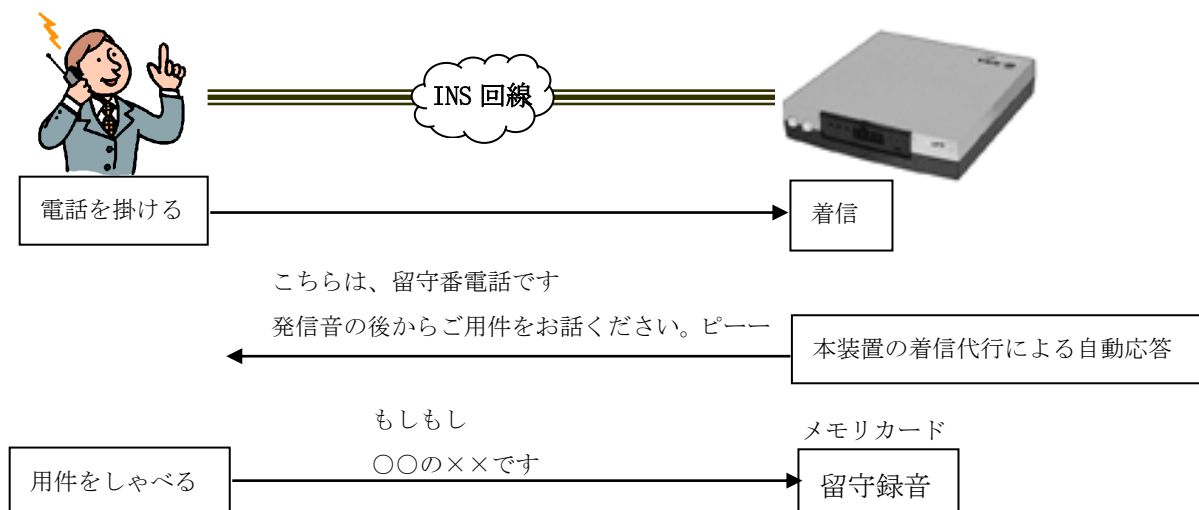


5. 3. 2 着信代行による留守録とは

本装置正面の動作モード切替スイッチが「留守」に設定されている場合、回線から着信があると端末が呼び出されますが、しばらくして端末の応答がない場合には、本装置が着信を代行するために自動応答をして音声ガイダンスを流します。その後、相手の音声メッセージを録音します。

着信による端末ベル鳴動中に応答した場合及び、発信では通話録音を行います。

<留守録の例>



留守録音・通話録音の開始・停止の条件は次の通りです。

状態	録音開始の条件	録音停止の条件	録音種別
端末から発信	相手が応答した	端末がオンフックした	通話録音
端末に着信 (端末鳴動中)	端末がオフフックした	端末がオンフックした	通話録音
端末に着信 (着信代行)	本装置が自動応答した	・本装置が自動切断した ・相手が切断した	留守録音 ※1

※1 本装置の着信代行による自動応答は、着信による端末の「呼出」、「応答」メッセージから約 10 秒で移行します。自動応答後は、端末のベル鳴動は停止します。

5. 4 録音した音声メッセージの確認方法

本装置により、通話録音または、留守録した音声メッセージを確認する方法を説明します。

確認方法はメモリカードを取り外してパソコンで再生する方法と、本装置に接続されている電話機から操作して受話器で聞く方法の 2 種類があります。

5. 4. 1 電話機から確認する方法

電話機のダイヤルボタンを押し、操作コマンドを入力することで音声メッセージの再生や削除ができます。

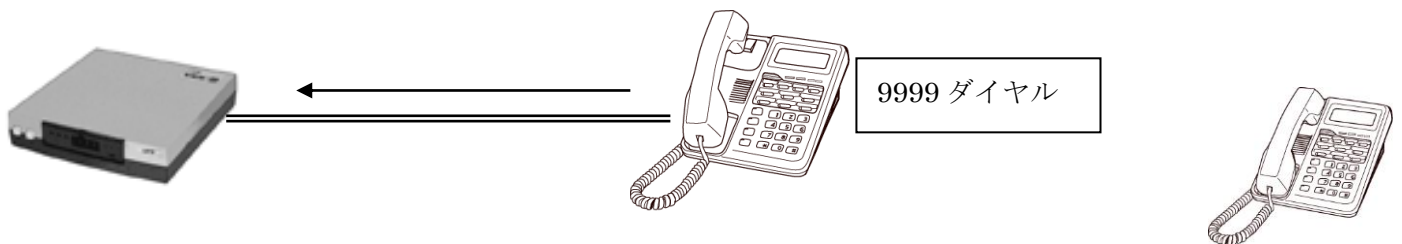
基本操作 再生方法

① 電話機を受話器を上げ、「ツー」という発信音が聞こえることを確認します。

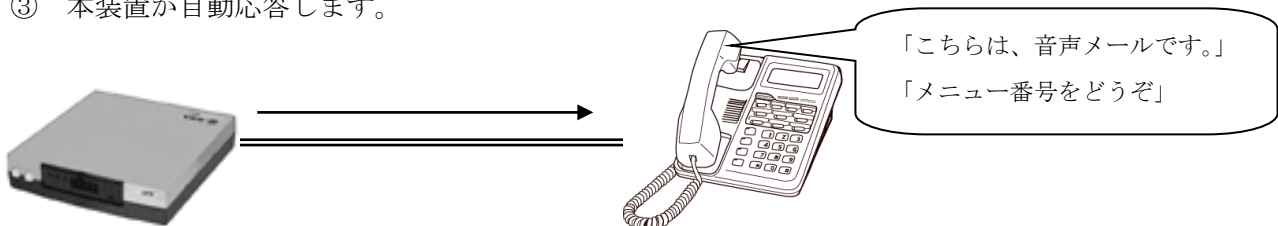
※このとき、本装置に収容した回線を捕捉している必要があります。

0 発方式や回線自動捕捉などは注意してください。

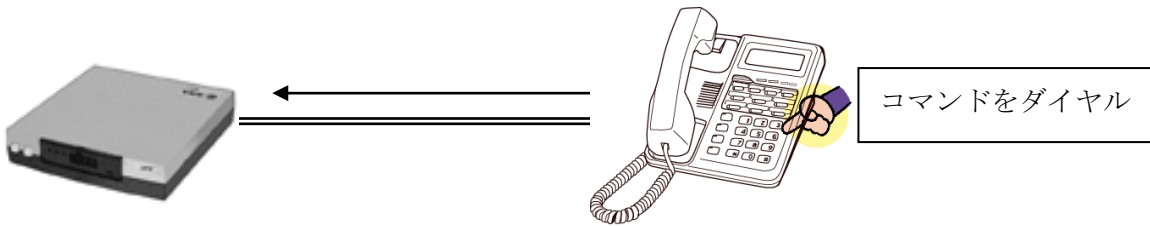
② 電話機から「9999」をダイヤルします。



③ 本装置が自動応答します。

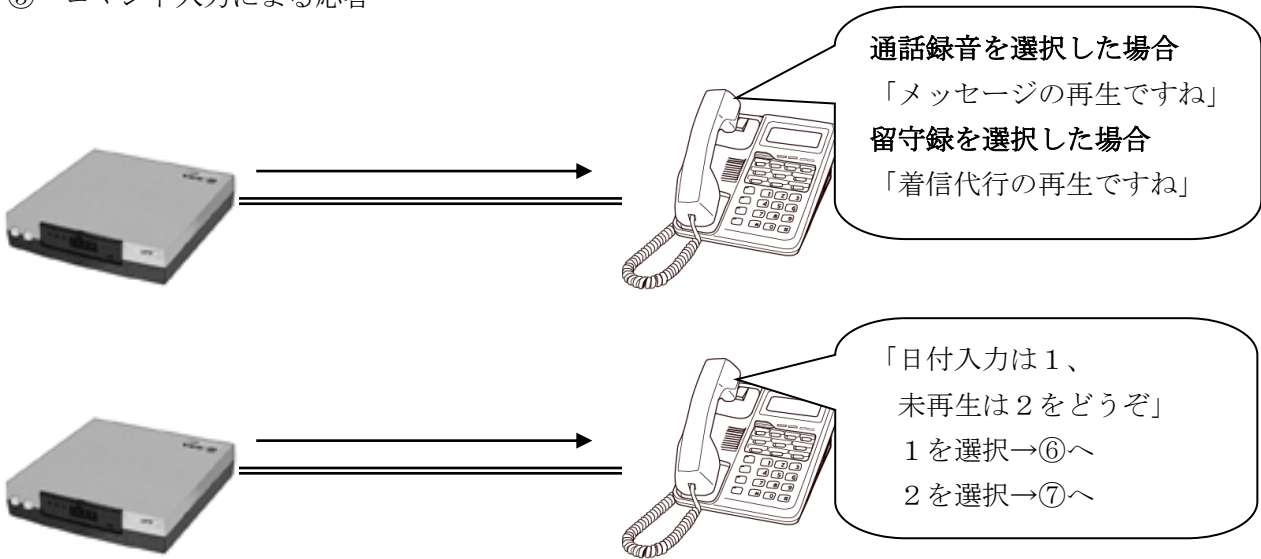


④ 再生コマンドを入力します。



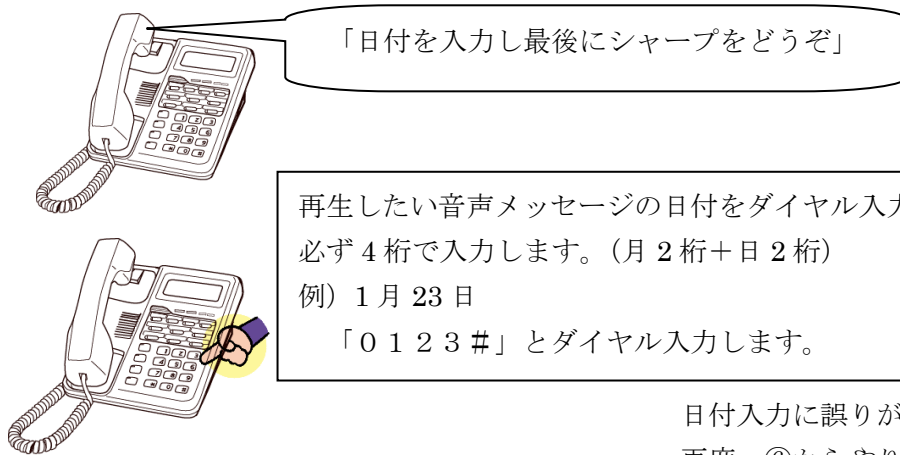
- ・ 通話録音の音声メッセージをお聞きになる場合 → 「##**1」とダイヤルします。
- ・ 留守録の音声メッセージをお聞きになる場合 → 「##**2」とダイヤルします。

⑤ コマンド入力による応答



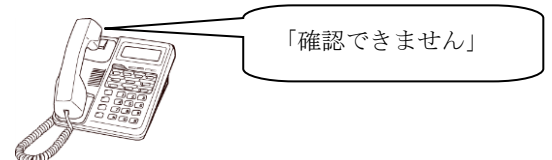
⑥ 日付入力の合図が聞こえたら日付を入力します。

日付入力の合図



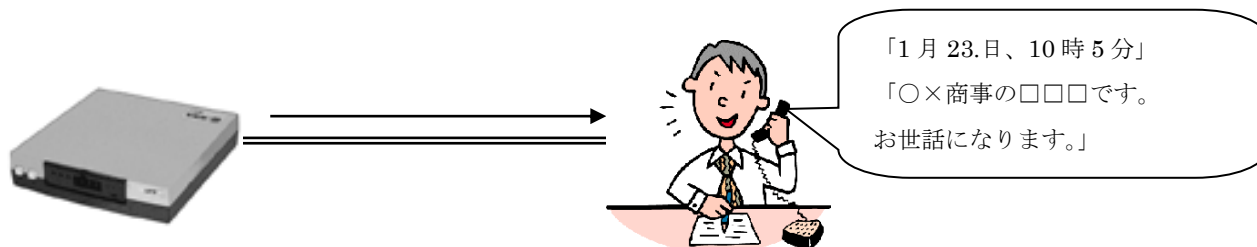
日付入力に誤りがあると・・・
再度、⑥からやり直しです。

日付が正しく入力され、かつ、指定日付の
音声メッセージがある場合は⑦へ



⑦保存された音声メッセージを再生します。

再生ファイルが保存された日付を案内後、音声メッセージが再生されます。



音声メッセージ再生終了



再生する音声メッセージがまだ残っている場合

日付入力を指定した場合 → ⑥へ

未再生の再生を指定した場合 → ⑦へ

※端末の受話器を置く（オンフック）と本装置は待機状態に戻ります。

注意) 録音中など、メモ리카ードへのアクセス中に本装置の電源が切れたり、

メモ리카ードを抜いたりすると、メモ리카ードのデータが失われる場

合があります。

6. 各種設定

本装置側面の設定部分の説明です。

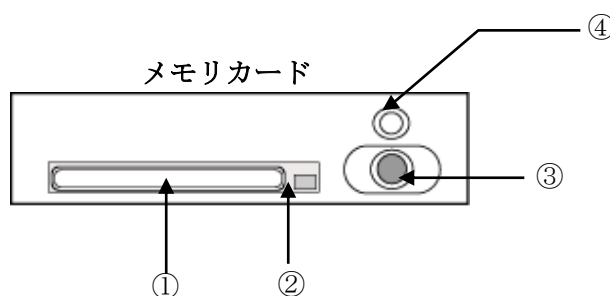


<右側面> 設定蓋を開けたところ

6. 1 メモリカード部の説明

本装置の右側面にあるメモリカード蓋を開け設定します。

注意) 蓋は本体より外れますので取り扱いには注意してください。



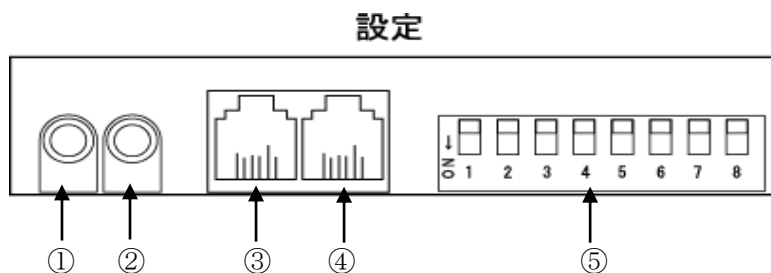
メモリカード部の説明

記号	名称	内容	備考
①	メモリカードスロット	メモリカードを挿入するスロットです。 メディアはコンパクトフラッシュです。	最大容量は 2GBまで
②	メモリカード取出しスイッチ	スイッチを押すとメモリカードを取出せます	
③	メモリカード電源 OFF スイッチ	メモリカードの電源供給を停止し、カードが抜けるようにします。 電源が入ったままの抜き差しはデータの保証がされませんので注意してください。	
④	メモリカード電源表示ランプ	消灯時 カードへの電源供給はされていません。 メモリカードの抜き差しができます。 点灯時 カードへ電源供給されています。 メモリカードの抜き差しができません。	

6. 2 設定部の説明

本装置の右側面にある設定蓋を開け設定します。

注意) 蓋は本体より外れますので取り扱いには注意してください。



設定部の説明

記号	名 称	内 容	備 考
①	拡張端子	使用しません。	
②	拡張端子	使用しません。	
③	メンテナンス端子	何も接続しないでください。	
④	メンテナンス端子	何も接続しないでください。	
⑤	ディップスイッチ	各種設定用	<u>設定内容は 6.2.1 を参照してください。</u>

6. 2. 1 ディップスイッチの設定

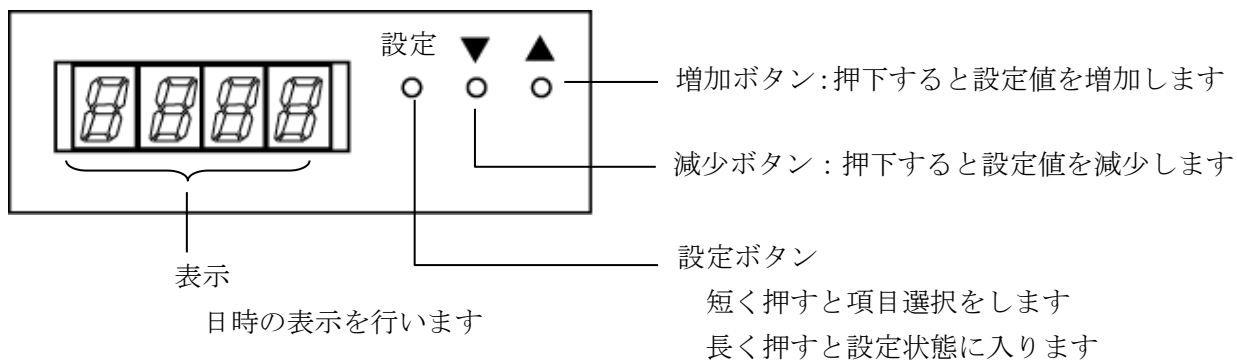
ディップスイッチの設定は次の通りです。

設定ディップスイッチ機能一覧

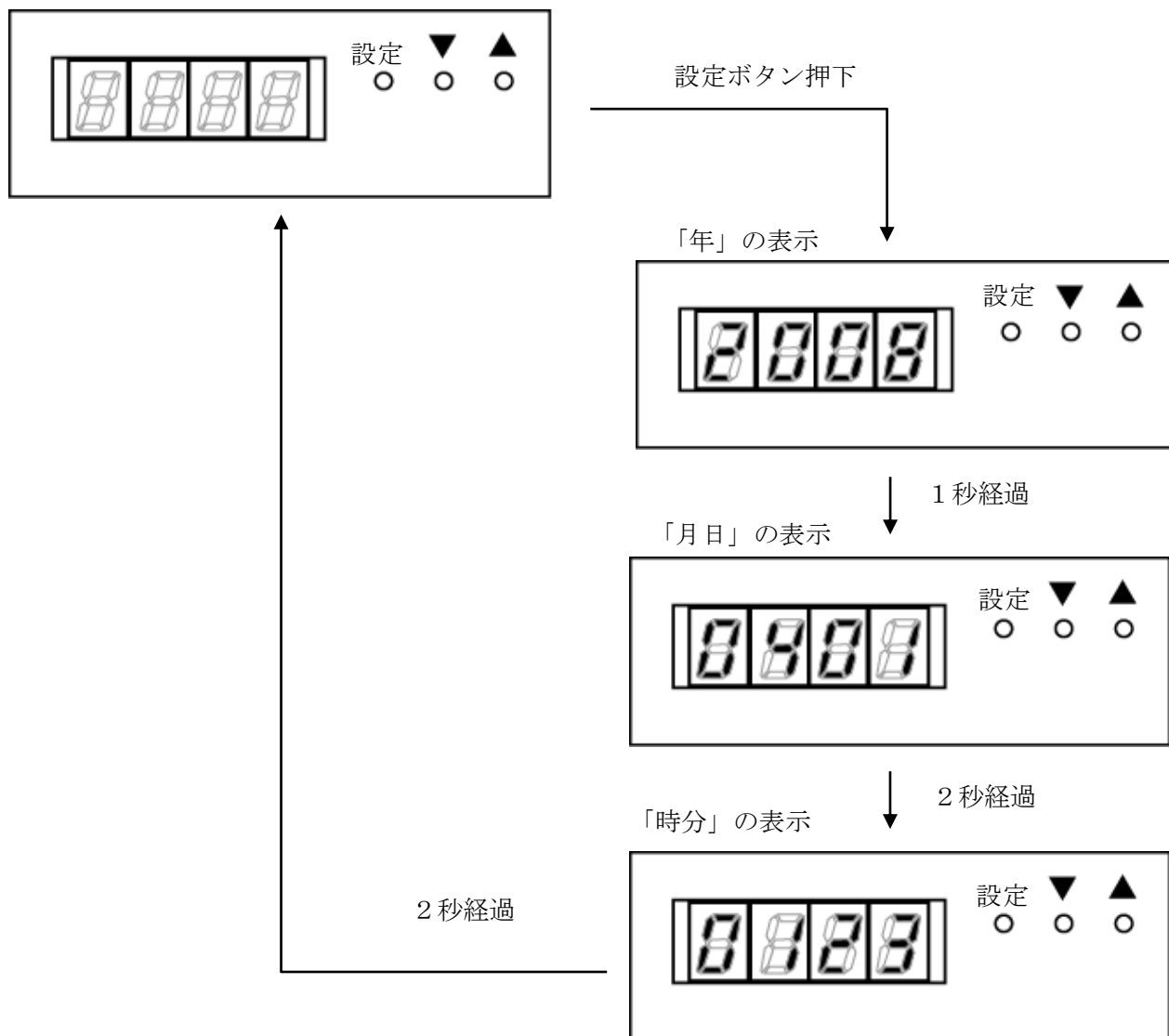
DIP No	機能	内容		備考
1	予約	上	未使用	使用しません。
		下	未使用	
2	予約	上	未使用	使用しません。
		下	未使用	
3	予約	上	未使用	使用しません。
		下	未使用	
4	P-MP、P-P 切替	上	P-MP 接続設定	
		下	P-P 接続設定	
5	自動/手動切替	上	自動設定	
		下	手動設定	
6	予約	上	未使用	使用しません。
		下	未使用	
7	予約	上	未使用	使用しません。
		下	未使用	
8	予約	上	未使用	使用しません。
		下	未使用	

※ は初期値です。

7 メンテナンス
 正面パネルの説明



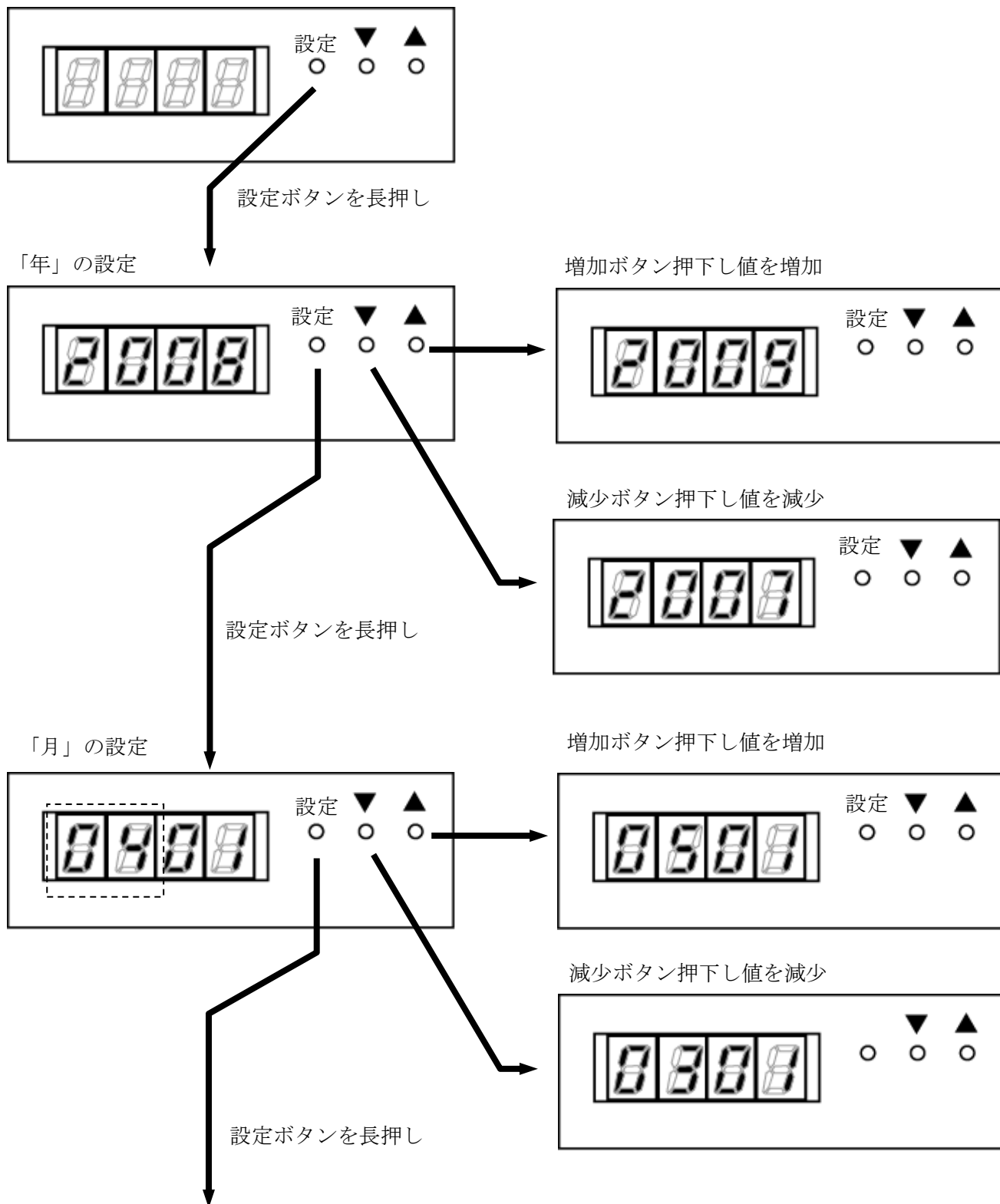
7. 1 日付設定の方法
 7. 1. 1 現在日時の表示



7. 1. 2 日時の設定

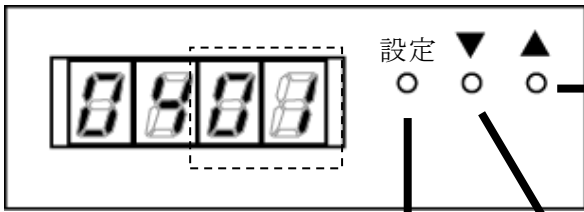
本装置はバックアップ電池を内蔵していますので、設定した年月日、時刻は本装置の電源を切っても保持します。

待機状態



「月」の設定からの続き

「日」の設定



増加ボタン押し下し値を増加

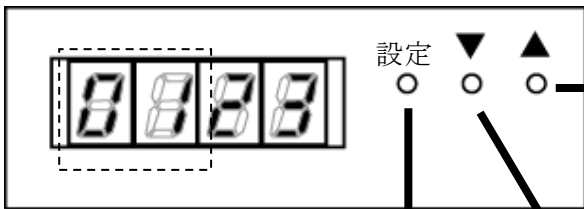


設定ボタンを長押し

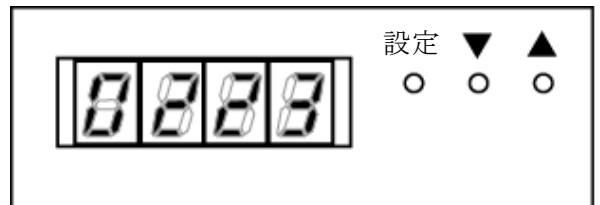
減少ボタン押し下し値を減少



「時」の設定

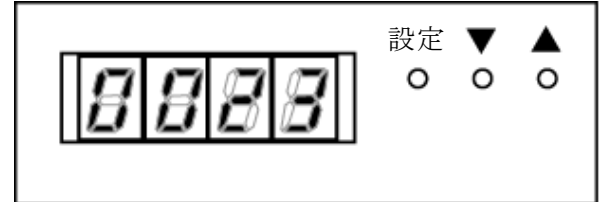


増加ボタン押し下し値を増加

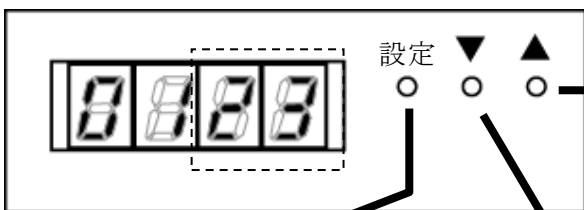


設定ボタンを長押し

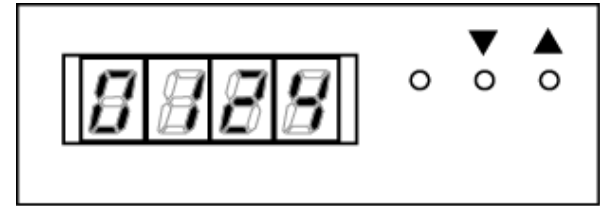
減少ボタン押し下し値を減少



「分」の設定

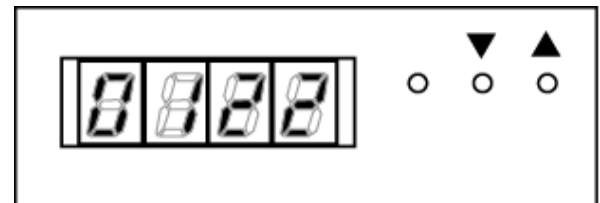


増加ボタン押し下し値を増加



設定ボタンを長押し

減少ボタン押し下し値を減少



待機状態へ戻ります

7. 2 コマンド操作

本装置に接続された端末からプッシュ信号によるコマンド操作ができます。
コマンド操作により、録音されたメッセージの再生や消去、再生禁止などが行えます。

7. 2. 1 コマンド操作の基本

コマンド操作の基本的な流れを説明します。

- ① 電話機の受話器を上げ、本装置に接続されている回線を捕捉します。
- ② 「ツー」という音が聞こえることを確認します。
- ③ コマンド：9999を電話機からダイヤルします。
- ④ 受話器から「こちらは、音声メールです。」「メニュー番号をどうぞ」と聞こえますので、聞き終わった後は、電話機よりコマンドをダイヤルしてください。
- ⑤ 操作を終了する場合は、電話機の受話器を置いて回線を開放してください。

7. 2. 2 コマンド一覧

項目	コマンド	機能
通話録音再生	##**1	通話録音されたメッセージの再生を行います。
留守録音再生	##**2	留守録音されたメッセージの再生を行います。
外部メモリ初期化	##**3	外部メモリに保存された録音メッセージの全てを削除します。
全メッセージ再生禁止	##**4	全てのメッセージ再生を禁止します。
全メッセージ再生禁止解除	##**5	全てのメッセージ再生の禁止を解除します。
前スキップ	再生中に *1	現在よりも前のメッセージを再生します。
後スキップ	再生中に *3	現在よりも後ろのメッセージを再生します。
高速再生	再生中に *5	現在のメッセージを高速に再生します。 通常→2倍速→4倍速→通常とループします。

7. 2. 3 コマンド操作説明

共通の操作

- ① 受話器を上げ本装置の回線を補足する。
- ② コマンド「9999」をダイヤルする。
- ③ 「こちらは、音声メールです。」「メニュー番号をどうぞ」が受話器から聞こえ、コマンド入力待ちとなる。
- ④ 各コマンドをダイヤルして実行する。

(1) 通話録音再生

「通話」動作モードにより録音した音声メッセージを再生する操作です。

- ① コマンド入力待ち

- ② コマンド をダイヤルする。

- ③ 「日付入力は1、未再生は2をどうぞ。」と受話器から聞こえる。

- ④ コマンド をダイヤルした場合は、⑤へ。

コマンド をダイヤルした場合は ⑨へ。

- ⑤ 「日付を入力し、最後にシャープをどうぞ。」と受話器から聞こえる。

- ⑥ 日付を入力する。(月2桁、日2桁で入力)

例) 12月5日の場合

日付 を入力する。

- ⑦ 再生する音声メッセージが保存された日付 (xx月xx日xx時xx分) が受話器から聞こえる。
- ⑧ 音声メッセージが再生され、再生完了後は③へ。
- ⑨ 再生する未再生の音声メッセージが保存された日付 (xx月xx日xx時xx分) が受話器から聞こえる。
- ⑩ 未再生の音声メッセージが再生される。
再生完了後に、未再生の音声メッセージが残っている場合は、続けて再生⑦へ。
未再生の音声メッセージが残っていない場合⑪へ。
- ⑪ 「すべてのメッセージは、終了しました。」が受話器から聞こえる。
コマンド待ち①へ

※ すべてのメッセージ再生を禁止に設定している場合は、「再生できません」と受話器から聞こえ音声メッセージは再生されません。

※ 再生禁止を解除する場合は、すべてのメッセージ再生禁止の解除を実行してください。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

(2) 留守録音再生

「留守」動作モードにより録音した音声メッセージを再生する操作です。

① コマンド入力待ち

② コマンド をダイヤルする。

③ 「日付入力は1、未再生は2をどうぞ。」と受話器から聞こえる。

④ コマンド をダイヤルした場合は、⑤へ。

コマンド をダイヤルした場合は ⑨へ。

⑤ 「日付を入力し、最後にシャープをどうぞ。」と受話器から聞こえる。

⑥ 日付を入力する。(月2桁、日2桁で入力)

例) 12月5日の場合

日付 を入力する。

⑦ 再生する音声メッセージが保存された日付 (xx月xx日xx時xx分) が受話器から聞こえる。

⑧ 音声メッセージが再生され、再生完了後は③へ。

⑨ 再生する未再生の音声メッセージが保存された日付 (xx月xx日xx時xx分) が受話器から聞こえる。

⑩ 未再生の音声メッセージが再生される。

再生完了後に、未再生の音声メッセージが残っている場合は、続けて再生⑦へ。

未再生の音声メッセージが残っていない場合⑪へ。

⑪ 「すべてのメッセージは、終了しました。」が受話器から聞こえる。

コマンド待ち①へ

※ すべてのメッセージ再生を禁止に設定している場合は、「再生できません」と受話器から聞こえ音声メッセージは再生されません。

※ 再生禁止を解除する場合は、すべてのメッセージ再生禁止の解除を実行してください。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

(3) 前スキップ

音声メッセージの再生中に、現在再生している音声メッセージよりも古い音声メッセージを選択する操作です。

再生中に有効なコマンドです。

① 音声メッセージの再生中

② コマンド をダイヤルする。

③ 現在再生中の音声メッセージよりも古い音声メッセージがある場合には、現在の再生を中止し選択された古い音声メッセージを最初から再生する。
選択する音声メッセージがない場合は、現在の再生を中止してコマンド入力待ちへ戻る。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

(4) 後スキップ

音声メッセージの再生中に、現在再生している音声メッセージよりも新しい音声メッセージを選択する操作です。

再生中に有効なコマンドです。

① 音声メッセージの再生中

② コマンド をダイヤルする。

③ 現在再生中の音声メッセージよりも新しい音声メッセージがある場合には、現在の再生を中止し、選択された新しい音声メッセージを最初から再生する。
選択する音声メッセージがない場合は、現在の再生を中止してコマンド入力待ちへ戻る。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

(5) 高速再生

音声メッセージの再生速度を早くする操作です。
再生中に有効なコマンドです。

- ① 音声メッセージの再生中
- ② コマンド をダイヤルする。
- ③ コマンド入力毎に現在再生中の再生速度が“通常→2倍速→4倍速→通常”と変わります。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

(6) 再生禁止

すべての音声メッセージの再生を禁止する操作です。
設定すると電話機からの再生はできなくなります。
設定には暗証番号が必要です。

- ① コマンド入力待ち
- ② コマンド をダイヤルする。
- ③ 「暗証番号をどうぞ」と受話器から聞こえる。
- ④ 暗証番号4桁 をダイヤルする。
- ⑤ 「すべてのメッセージの再生を禁止します。」と受話器から聞こえる。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

※ 暗証番号は再生禁止解除が必要です。忘れたりしないようご注意ください。

(7) 再生禁止解除

すべての音声メッセージの再生禁止を解除する操作です。
設定すると電話機からの再生ができるようになります。
設定には再生禁止で設定した暗証番号が必要です。

① コマンド入力待ち

② コマンド をダイヤルする。

③ 「暗証番号をどうぞ」と受話器から聞こえる。

④ 暗証番号4桁 をダイヤルする。

⑤ 「すべてのメッセージの再生禁止を解除します。」と受話器から聞こえる。

※ 電話機の受話器を置くと操作はすべて中断され、待機状態に戻ります。

※ 再生禁止で設定した暗証番号が必要です。忘れたりしないようご注意ください。

(8) 外部メモリ初期化

外部メモリを初期化する操作です。
初期化では、すべての音声メッセージは消去されます。
設定値は出荷初期値に戻ります。

① コマンド入力待ち

② コマンド をダイヤルする。

③ 「録音された音声を削除ですね。よろしければ5、誤りであれば0をどうぞ」

④ 「全てのメッセージは削除しました。」と受話器から聞こえる。

8. 主な仕様

項目	内容
局線側収容回線	U点：1回線
端末側収容回線	U点：1回線
適合回線	I SDN基本インタフェース 回線交換サービス
インタフェース仕様	TTC標準JT-G961準拠
インタフェース構造	2B+D／(B：64k b p s、D：16k b p s)
伝送速度	320k b p s (U点)
インタフェース形態	P-P、P-MP
接続方式	RJ-11モジュラープラグ (U点)
線路損失等化能力	最大50dB (Φ0.5mmケーブル周波数160kHzにおける値)
直流ループ抵抗	最大810Ω
起動種別	呼毎、常時
消費電力	12W以下
動作温度	5℃～45℃
動作湿度	10%～80% (ただし、結露なきこと)
電源	ACアダプタ (スイッチング方式) PSE 取得品 入力 AC100V (50Hz/60Hz) 出力 DC12V/2A (センタープラス)
外形寸法	約210mm (W) × 225mm (D) × 47mm (H)
本体重量	約800g

5.2 主な機能

項目	内容
録音機能	通話録音、留守録音
録音方式	手動設定 (「通話」「留守」ボタンによる)、スケジュール設定
録音媒体	コンパクトフラッシュ
最大容量	2GB
録音時間	約34時間 (2GB時)
録音形式	WAVEフォーマット
圧縮形式	μ-law
サンプリングレート	8kHz、8ビット
チャンネル	ステレオ
停電時	局側端子-端末端子間はスルー

9. トラブルシューティング

故障かなと思う前に・・・、もう一度お確かめください。

症状	確認内容
主装置との同期が確立しない	主装置と正しく接続されていますか。 極性はL1+になっていますか。(一部主装置はL1-です。) 主装置の工事説明書をご確認ください。
	PP/PMPの設定は正しいですか。
	回線の線路抵抗は高くないですか。
通話録音ができない	コンパクトフラッシュメモリが正しく挿入されていますか。 「通話」モードは選択されていますか。
	録音容量に十分な空きはありますか
留守番録音ができない	コンパクトフラッシュメモリが正しく挿入されていますか。 「留守」モードは選択されていますか。
	録音容量に十分な空きはありますか。
録音時間が正しくない	現在時刻の設定は正しいですか。
電話機から再生できない	電話機のダイヤルを押すとプッシュ信号はでますか。
再生音量が小さい/大きい	装置での音量操作はできません。 電話機またはパソコンの再生側にて音量を調整してください。
回線の発信・着信ができない	電話機からの再生操作は1台の操作で、1チャンネルを使用しています。 電話機2台から再生操作の際は、回線への発信・着信は行えなくなります。

